

瀬戸内タウンミーティング

平成 25 年 8 月 17 日（土曜日）

午後 2～4 時

ゆめトピア長船 2 階リフレッシュスタジオ

参加者：男性 33 人、女性：7 人 合計 40 人

【意見交換】

・既存の道路を修繕してほしい。

（市長）

瀬戸内市には都市計画がないので、道路の使い勝手が悪くなっている。なるべく既存のものの修繕をしていきたいとは思っている。必要最小限のものだけを新規でするようにしている。狭い道路を広くしていくように考えていきたい。要望がある箇所については土木委員を通じて要望をだしてほしい。

・市民病院を建てるのはかまわないが、病院や図書館は市民にアンケートをとってもらいたい。特別養護老人ホームのようないつまでも居れるような施設をつくってほしい。いま、市民病院も何ヶ月かしたら出ていかなければならない。

（市長）

・市民病院のアンケートは 4 年ほど前に一度とっていて、負担が増えてでも残してほしいという人が多かった。市の持ち出しがなるべく少なくなるように考えていきたい。市民病院と特別養護老人ホームなどを行き来できるような仕組みができればいいと思う。新病院は、110 床を考えている。減らすと入院できるところがなくなって困ることになる。色々な仕組みを考えていかなければならないので、検討課題とさせていただきたい。

・関連質問で、今の病院の設備状況とかを他病院と比較して再検討してほしい。お金がかかるなら、賛成はできない。

・瀬戸内市が住みやすいというのは疑問を感じる。

（市長）

・市民病院は 11 月までに結論を出すということで再検討しているところである。市民がいざというときに入院できたりして頼れる病院にしたい。市民に求めら

れるものができているかということを考えていきたい。一般病床の充実、リハビリ病床、療養病床の3種類の組み合わせを考えている。目指すところは後方支援病院で、簡単な手術や転院の際の受け皿としたい。診療所から紹介状を出してもらえそうな病院を目指していきたい。

・住みやすさは年代、場所によって違うと思う。地域間によって受け止め方が違うということ意識してこれからも色々な人の話をきいていきたい。

・雇用促進は即効性があるが、将来的には子どもが少なくなるので、外から呼ぶために、教育関係をもっと充実させる必要がある。岡山県は教育レベルが非常に低いし、瀬戸内市も不登校の問題などがある。理想としては、教育レベルが高いという評判がたつと、岡山に通勤する人も瀬戸内市に家を買おうかということになるかもしれない。最近の若い親は教育レベルに関心があるので、若い人を呼び込む方法、活性化の方法につながるのではないか。

(市長)

・教育レベルを高めていくのは重要だと思っている。大切なのは公立の学校でいい学校があること。今の市内の学校は伸びしろがあるので、面白い授業や体験型学習をするなど、授業のやり方を検討し、準備している。

・今の子供は競争意識が低いので意識改革をしないといけないと思う。

(市長)

・瀬戸内市は、学力よりも学習意欲が低いのが問題。どうやる気を起こさせるかを含めて考えたい。地域の方にも協力してほしい。

・親の教育からしなければいけないと思う。

(市長)

・図書館を利用するとか、生涯学習をするとか、地域全体で協力して教育レベルを上げていくことを考えなければならない。何か知恵があったら聞かせてほしい。

・教育の一環でスポーツの振興があると思う。チャレンジデーは継続すればよいが、体育の日にもチャレンジデーに準ずるように施設の開放や指導員の配置などをして、スポーツを日常生活に取り込んでいってはどうか。

(市長)

・市全体と言うより、地域単位でするのも考えてもよいと思う。地域の皆さんがスポーツを通して協力し、地域活性化できるように取り組んでいきたい

・**安心できるまちというのは「安心して亡くなれる」「死後の安心もできる」ということでもあるのではないか。全国的にお墓のあり方が問われているが、市として、市民・関係者であれば、誰でも入れるお墓を考えてもらえないか。**

(市長)

・現在は楽々園に永代供養塔があるが、一般の人が誰でも入れるわけではない。一般の方が入れるような永代供養塔としては宗教的な問題もあるので持ち帰り、できるかどうか含め、検討したい。

・**散骨はどうか。**

(市長)

・今は難しいのではないか。それも含めて検討する。

・**在宅介護の支援が少ない。障害があるのだが、介護保険では器具などの支援が少ない。介護施設に入るのを推進するのではなく、在宅介護の補助の充実についても考えてほしい。**

(市長)

・在宅で介護ができる状態での補助制度は多少はあるが、十分ではない。市単独でどこまでできるかわからないし、介護保険制度の見直しの際伝えていきたいがどこまでできるかわからない。そのような意見があることは認識したい。

・**有事の場合の避難方法、避難場所などの周知が十分ではないのではないか。徹底してほしい。有事の場合のマニュアルなどを各戸に1部ずつでも配ってほしい。**

(市長)

全戸にマニュアルを配るのも1つの方法かもしれないが、今、実際に行っているのは地域単位で実際に避難訓練に参加してどう行動するかを地域主導になって、時間をかけて行っている。まだ全市では行えていないが、広い範囲で行っていききたいのでそういった地域の訓練などに参加して実際に行ってほしい。

・福岡の伏流水はずっと大丈夫か。

(市長)

・水道の問題だが、これからどうしていくか検討している。市にある水源地と県の広域水道の組み合わせで考えていくようになると思う。福岡の水をどういう風に残していくか考えなければならない。安全でおいしい水はなくさないようにしていきたい。

・市民病院は現在 11 科あるが、いつでもしているわけではなく、開いている時間が限られている。新しくなってもかわらないのか。

(市長)

医者常駐させようとするので、医者を 4~5 人確保しなければならない。新しい病院になっても、リハビリ、外科、内科の層は厚くなっても、どうしても 100%にはならないかもしれない。もっと大きければ、できるが、110 床では難しい。層は厚くなるようにし、皆さんの期待に応えられるように検討していくが、あまり大きな期待には応えられないかもしれない。

・市民病院はある程度特化した専門病院にしてほしい。

・市民病院に前の病院からの電子データを持って行ったが、確認せず治療された。

・刀剣博物館の運営方法を考えてほしい。「二次元 VS 日本刀展」の来館者は昨年より少ない。ポスターを行政委員に持ってきたのは展覧会が始まってから。始まる前に、アイデアとかの相談とかあればよかったのではないかと。そういったことで、地域活性化にもつながるのではないかと。

(市長)

・市民病院を何かに特化した病院にしてほしいと市民の皆さんが求めているかといえば必ずしもそうではない。市民病院は、採算性と採算が合わなくてもいざという時にみてほしいという両方が大切。

・データについては病院に確認する

・刀剣博物館の運営については、地域全体がどう盛り上げられるかが課題だと思うので考えていきたい。